

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 原 徳明
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp

令和8(2026)年8月1日 土曜日
(毎月1日発行) 1部80円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



昨年の比叡山宗教サミット「世界平和祈りの集い」で
平和を祈る教宗派の代表者ら

比叡山宗教サミット39周年 「世界平和祈りの集い」8月4日に開催

宗教や宗派の垣根を越えて対話と祈りを交わし、世界平和に献身する比叡山宗教サミット39周年「世界平和祈りの集い」が8月4日午後1時から、比叡山延暦寺(大津市)で開催される。国内外から約400人の宗教者が出席する予定で、来年の40周年という節目を前に、初回からの歩みを振り返る機会とする。

同サミットは、ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の提唱によりイタリア・アッシジで開かれた「世界平和の祈り集会」の精神を引き継ぎ、昭和62年(1987)に始まった。以来、毎年宗教者が比叡山に集い、世界の恒久平和実現に向けた共働の確認と、平和への祈りを捧げている。

これまでも5年、10年の節目には記念大会を開いており、令和9年には40周年を迎える。35周年以降は、サミットの精神を次世代に継承する取り組みとして、第1回で採択された「比叡山メッセージ」を若手宗教者に朗読してもらったりなど、その参加を積極的に促してきた。

その集大成となる今年は、平和の式典において世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の杉谷義純会長が「平和は祈りと対話を通じた勇気が支える」と題して講演する。草創期からサミットを支えてきた杉谷師の講演を通じ、初回の集いの開催経緯や精神への理解を深め、来年の40周年に向けて参加者の心を一つにする試みとして注目される。また、参加者への記念品に代わる制作費相当の浄財は、会場の同意を得て日本ユニセフ

令和8年熊本地震により、亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

天台宗
一隅を照らす運動総本部

詳細は
天台宗公式ホームページ
<https://www.tendai.or.jp/summit/index.html>

動画配信サイトYouTubeにて
同時配信 配信時間/13:00~

特設サイトへは
こちらから



令和8年8月4日(火)

延暦寺会館	
13:00	開式の辞
13:05	平和を語る
14:20	支援金寄託式
祈りの広場	
15:20	比叡山メッセージ朗読
15:30	平和の鐘 鐘打・平和の祈り(黙祷) 主催者代表挨拶 海外からの平和のメッセージ披露 閉式の辞

協会に寄託される予定。続いて、屋外の一隅を照らす会館前における祈りの広場では、午後3時20分から比叡山メッセージを朗読する。その後、平和の鐘の鐘打に合わせ参加者全員で黙祷を捧げるほか、海外からの平和メッセージも披露される。

なお、式典の様子はインターネットでライブ配信される予定。プログラムの詳細は次の通り。

極微

広島、長崎の原爆の日や終戦記念日を迎える8月は「祈りの月」と呼ばれ全国各地で戦没者へ祈りを捧げ、平和を考える様々な機会が設けられている。しかしながら世界に目を向けると、自国中心主義や対立による戦争・紛争が止むこと無く、深刻な人権侵害を生み出し続けている現実がある。『法華経』には、火事に気づかず家の中で遊びに夢中になっている子どもたちを、父親が巧みな方便で救い出す「火宅の喩」が説かれている。燃えさかる家は、過酷なこの世界の譬喩であり、人びとは危機に気づかぬまま恐怖の中にいる。仏は大悲の心をもって、人びとを救うためあらゆる手立てを尽くすという教えである。その教えは、分断や対立が深まる現代社会にも重なる。こうした時代だからこそ比叡山宗教サミット「世界平和祈りの集い」の開催意義はより大きいだろう。世界各地の宗教指導者が宗派や文化を超えて対話と祈りを重ねながら平和への連帯を築いてきた歩みは、来年で40周年を迎える。今年は講演を通じ、長年にわたり協調と結束を培ってきた軌跡を振り返りつつ、その精神をいかに次代へ継承し諸問題を乗り越える力へと発展させていくかを考える機会となる。▼現代社会という「火宅」の中で、共生の道を模索することが急務だけに、先人らの労苦を知り智慧に学びたい。